

期 部活動負担軽減のための振り返り

評価期間 年 月 日 ～ 年 月 日

評価 A：良くあてはまる B：あてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない
E：知らない・分からない

項 目	評 価
都道府県等 1 都道府県又は指定都市は、部活動指導手当の時間区分及び支給額の見直しを行った。 (平成 30 年 3 月、見直しを求める文書「運動部活動総合ガイドラインの徹底について」発出)	A B C D E
中体連、中文連等 1 大会参加資格等の見直しを行った。 (複数校合同チームの参加、学校と連携した地域クラブチームの参加など)	A B C D E
学校の設置者 1 各団体が開催する大会の全体像を把握した上で、学校の各部が参加する大会数の上限の目安等を策定した。 2 部活動指導員を積極的に任用・配置し、教員の長時間勤務の是正を図った。 3 運動部活動に代わりうる生徒のスポーツ活動の機会の確保・充実方策について検討している。	A B C D E A B C D E A B C D E
校 長 1 活動時間の上限、休養日や長期休養（オフシーズン）の設定などが明示された「部活動に係る活動方針」を策定した。 2 「部活動に係る活動方針」及び各部の年間及び毎月の活動計画並びに活動実績を、学校のホームページへの掲載等により公表した。 3 生徒・保護者・地域の人々等に対して、部活動の位置づけ、教員の長時間勤務との関係、学校における働き方改革との関係などを説明し、部活動に対する意識改革を促した。 4 校務分掌等に留意して顧問を依頼するなど長時間勤務の是正に配慮した指導・運営体制を構築した。 5 各部の活動内容、活動時間、大会・練習試合への参加回数、休養日、長期休養（オフシーズン）等の実態を把握の上、適宜、指導・是正した。	A B C D A B C D A B C D A B C D A B C D
顧 問（私） 1 活動内容、指導方法、活動時間、休養日、長期休養（オフシーズン）などが明示された活動計画を作成した。 2 前項の活動計画を生徒や保護者に配布・説明し、理解を得た。 3 1日の活動時間は、平日は長くとも2時間程度、休業日は長くとも3時間程度だった。 4 学期中は週当たり2日以上以上の休養日（平日1日以上、休業日1日以上）を設けた。 5 長期休業中は学期中に準じた休養日を設けるとともに、長期休養（オフシーズン）を設けた。 6 効率的・効果的活動方法の導入、参加する大会や練習試合の精選等により、長時間勤務の是正を図った。 7 活動時間の上限を超えて活動した場合に、実際より短い虚偽の勤務記録を残したことはない。 8 活動時間の上限や休養日の設定を守るよう、顧問間で互いに声をかけ合った。	A B C D A B C D